

京都工芸繊維大学

【N054 京都工芸繊維大学】

	京都工芸繊維大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工芸科学部（第1年次:585 第3年次:45） 工芸科学部【夜間】（第1年次:40 第3年次:5） 大学院工芸科学研究科（M:430 D:46）
沿革	明治32（1899）年 京都蚕業講習所創立 明治35（1902）年 京都高等工芸学校創立 昭和19（1944）年 京都繊維専門学校、京都工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制京都工芸繊維大学工芸学部・繊維学部設置 昭和40（1965）年 大学院工芸学研究科修士課程設置 昭和41（1966）年 大学院繊維学研究科修士課程設置 昭和63（1988）年 大学院工芸科学研究科博士前期課程・後期課程設置 平成18（2006）年 工芸科学部設置
設置目的等	<p>京都工芸繊維大学工芸科学部・工芸科学研究科の母体の一つである京都高等工芸学校は、実業教育が発展する中、美術及び学理を応用し工芸技術を修得する学校を美術工芸の最も盛んな京都に設立すべきとの貴・衆両院の建議等を踏まえ、明治35年に設置され、昭和19年に京都工業専門学校と改称された。</p> <p>同じく母体の一つである京都蚕業講習所は、日本蚕糸業の量的拡大の中、蚕種検査員や養蚕伝習所教師等の不足に対応すべく、広く西日本全域を対象とする蚕業講習所を京都に置くこととして明治32年に設置され、大正3年に文部省直轄の京都高等蚕業学校となり、昭和6年に京都高等蚕糸学校、昭和19年に京都繊維専門学校と改称された。</p> <p>昭和24年の新制国立大学としての発足時、両前身校は、京都工芸繊維大学工芸学部及び繊維学部として承継され、その後、昭和40年に工芸学研究科修士課程、昭和41年に繊維学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和63年には、テクノロジーと人間との結びつきにかかるソフト面を志向した教育研究を推進し、創造的な研究能力や該博な学識、豊かな人間感性等を備えた研究者・専門技術者の養成を目的とした工芸科学研究科博士課程が設置された。</p> <p>平成18年には、全学協力体制により、大学院と一体化した教育研究の更なる充実・強化を図るため、従来の2学部を発展的に統合して工芸科学部が設置された。</p>

強みや特色、  
社会的な役割

京都工芸繊維大学は、地元「京都」に立脚し、伝統文化・地場産業等と深くかかわりながら、工学的学術基盤を生かした「ものづくり」にかかわる実学中心の教育研究を展開するとともに、繊維学を起源とするカイコや桑など昆虫・植物等に係る農学分野の教育研究も併せて推進し、更に芸術的視点や先端性・地域性等を総合した「工芸科学」を志向しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 科学と芸術の融合や京都の地域性・伝統文化等を踏まえた工芸科学教育を展開し、課題解決能力や豊かな感性をもった国際的高度専門技術者育成を一層進展させ充実するとともに、21世紀型のイノベーション基盤を支える先端的・独創的な研究能力を有する人材育成の充実を図る。
- KITスタンダードや総合型ポートフォリオ、川下り方式インターンシップ等、独自の質保証・教育システムを生かしつつ、社会的要請や国際的水準を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な能力を修得する学部教育や、学部段階からの連続性・一貫性を踏まえた大学院教育を目指し不断の改善・充実を図る。
- 建築学やデザイン学、高分子・繊維材料、高分子化学などの前母校以来の高い研究実績と、機械力学や熱工学、メディア情報学、電子システム工学分野などの高い研究実績を生かしつつ、先端的な研究を推進するとともに、応用昆虫学・微生物学等の農学分野や生活科学などの豊かな実績を踏まえた工芸科学の展開を図る。
- 中小企業支援や京都府北部との連携等、産業・文化振興等に係る地域連携・社会貢献実績及び、教養教育の共同化や大学ミュージアム連携等の大学間連携実績を生かしつつ、地域の産学公連携を更に推進し、地域社会の発展・活性化や教育研究の高度化に資するなど、地域における中核機関としての役割を果たす。また、我が国の繊維産業基盤を支える様々な取組をはじめ、世界最大規模のショウジョウバエ遺伝資源や世界的にも芸術的・学術的価値の高い美術工芸資料等、オンリーワンの実績やリソースを生かした諸活動を推進し、広く社会に貢献する。
- 近畿地区の国立大学工学系学部では唯一の夜間主コースや大学院における社会人受け入れ実績及び、企業人向け講習会等の実績を

	生かしつつ、学部・大学院を通じた社会人教育の更なる充実や産業人材の資質向上のための教育プログラムの積極的展開などを通じ、地域の産業界の高度化・活性化に資する。
--	---